

第 1 回 第 5 次 亶理町総合発展計画審議会 議事録

開催概要

日 時：平成 26 年 9 月 30 日（火） 午後 1 時 30 分～午後 3 時 35 分

場 所：亶理町立図書館（悠里館） 視聴覚ホール

委 員：

	役職等	氏 名	出欠
1	宮城大学事業構想学部 副学部長 教授	風見 正三	
2	宮城大学食産業学部環境システム学科教授	郷古 雅春	
3	亶理地区行政事務組合消防本部消防長	菊地 英夫	
4	宮城県亶理警察署 代表	千葉 好	
5	亶理町災害防止協議会長	八木 昌征	
6	亶理町婦人防火クラブ連合会長	菅生 和子	
7	亶理地区区長会長(兼自主防災会連絡会長、亶理地区まちづくり協議会長)	伊藤 建夫	
8	吉田地区区長会長	岩佐 裕昭	
9	荒浜地区区長会長	武者 幸治	
10	逢隈地区区長会長	三品 知之	
11	荒浜地区まちづくり協議会長	鎌田 幸夫	
12	吉田西部地区まちづくり協議会長	小山 信悦	
13	吉田東部地区まちづくり協議会長	佐藤 實	
14	逢隈地区まちづくり協議会長	村上 収	
15	亶理町民生委員・児童委員協議会長	横山 敏彦	
16	亶理町老人クラブ連合会長	渡邊 信秋	
17	子ども・子育て支援審議会会長	志賀 力	
18	わたりっ子を育てる会会長	伊藤 幹代	
19	亶理郡医師会長	大友 弘美	
20	亶理町食生活改善推進員協議会長	清野 珠美子	
21	亶理町農業委員会会長	青柳 俊一	
22	亶理土地改良区理事長	三品 幸徳	
23	みやぎ亶理農業協同組合代表理事組合長	岩佐 國男	
24	みやぎ亶理農業協同組合女性部長	安住 郁子	
25	認定農業者協議会会長	片平 洋之	
26	亶理町農産加工推進協議会長	小野ひで子	欠席
27	宮城県漁業協同組合仙南支所亶理運営委員長	菊地 伸悦	
28	宮城県漁業協同組合仙南支所亶理水産加工研究会長	木村 光子	欠席
29	亶理ロータリークラブ 代表	櫻井 隆	
30	亶理ライオンズクラブ 代表	黒崎 敏郎	

	役職等	氏名	出欠
31	(社)あぶくま青年会議所 代表	佐藤 英治	欠席
32	亶理山元商工会会長	丸谷 由郎	
33	亶理山元商工会女性部長	丸子キヨ子	
34	亶理山元商工会青年部長	刈谷 文俊	
35	亶理町教育委員会委員長	佐藤 正行	
36	亶理町地域婦人団体連絡協議会長	小野 典子	
37	亶理町芸術文化協会会長	大堀 欣七	
38	亶理町PTA連絡協議会長	三品 裕也	欠席
39	亶理町スポーツ振興審議会会長	樋口久美子	
40	NPO 法人 セリアの会理事長	セリア・ダンケルマン	
41	一般住民	宍戸 法男	
42	一般住民	大久 邦夫	
43	一般住民	門馬恵美子	
44	一般住民	木村 一行	
45	一般住民	齋藤 博志	
46	一般住民	伊藤美和子	
47	一般住民	尾本とも代	
48	一般住民	太細 正志	
49	一般住民	鈴木一江	
50	一般住民	紅林 すゞ子	

※全50名中、46名出席。

亶理町総合発展計画審議会条例の第6条2項の規定により会議は成立した。

事務局：

町長	齋藤 貞	
副町長	三戸部 貞雄	
教育長	岩城 敏夫	
企画財政課	課長	吉田 充彦
	班長	関本 博之
	副班長	南部 浩秀
	副班長	庄司 洋
	主事	猪股 裕二郎
	主事	武山 智哉
	主事	渡部 悟

事務局補助：

国際航業株式会社	増戸 保明
	小山 久美
	清水 里美

配布資料：【次第】

【委員名簿】

【亶理町総合発展計画審議会条例】

【資料 1】 亶理町計画体系／第 4 次総合発展計画概要

【資料 2】 計画策定スケジュール

【資料 3】 亶理町の現状と町を取り巻く社会経済状況

【わたりフレンドシップ 21 プラン（第 4 次総合発展計画） 後期基本計画】

【亶理町復興計画図】

（以上、当日配布）

議事概要

- 開会に先立ち、事務局の関本班長から連絡事項として傍聴人（1 人）の出席と会議の記録及びホームページでの公表予定の旨を伝えた。
- 続いて、齋藤町長より委嘱状の交付を行った。委員を代表して、風見委員に交付された。

1. 開会

- 事務局の関本班長が進行した。

2. あいさつ

- 齋藤町長より、「亶理町長に就任して、4 ヶ月が経過しました。町民の皆様には、日頃から町政等諸々にご尽力いただいておりますこと、厚く御礼申し上げます。本日は、第 1 回亶理町総合発展計画審議会ということで、委員の皆様にはお忙しい中お集まりいただき、また、委員就任を快くお引き受けいただいたことに、改めて御礼申し上げます。先ほど委嘱状を交付させていただきましたが、この審議会は学識経験者 2 名、町内の主要団体から 38 名、公募により一般町民の方 10 名の、あわせて 50 名で構成され、亶理町のこれからのまちづくりに最も重要となる、『総合発展計画』の立案・審議を行っていただくこととなりますので、よろしく願い申し上げます。現在亶理町では、平成 18 年度からスタートした『第 4 次亶理町総合発展計画』を元に、各種事業を行っております。10 年間の計画期間が来年度の平成 27 年度で最終年度を迎えるため、平成 28 年度からの新たなまちづくりの指針となる『第 5 次亶理町総合発展計画』の策定に向けて、委員の皆様にお力添えをいただきたいと存じます。さて、私どもが住んでいる亶理町は、海、山、川、里等の恵まれた自然の中で、安全でおいしい食を尊び、先人たちの努力と叡智で築かれた、歴史と伝統、文化を有する暮らしやすく住みよい町でございます。しかし、我が国日本におきましては、少子高齢化社会の進展とともに、本格的な人口減少時代を迎え、これまでの社会経済のあり方の抜本的な見直しが迫られております。また、地域主権改革の進展に伴い、地方には地域の個性や特性を生かし、自らの判断と責任において、独自のまちづくりを進めることが強く求められております。このため、亶

理町においても、町民の皆様方のご意向を反映し、これからの10年、20年後のビジョンをしっかりと見据えた我が互理町をつくっていく拠り所となる、総合発展計画の策定に取り組むものでございます。

平成23年3月11日に発生した東日本大震災から3年6ヶ月が経過しましたが、震災の傷跡は大きく、今なお617世帯・1,757名の仮設の方々、みなし仮設住宅を入れますと2,900名の町民の方々が不自由な生活を送っておられます。本町では一日も早い復興に向け、『互理町震災復興計画』に基づき、「安全、安心、元気のあるまち互理」を目指し、県内外の自治体から派遣いただいている職員と町職員が一丸となって、各種復興事業に鋭意取り組んでいるところでございます。

しかし、復興道半ばにあり、こういう苦しい時だからこそ自分たちの足元をしっかりと踏みしめながら、明日に向かい希望を持って、次の世代を担う子どもたちに、私どもが住んでいる互理町をどうすればより良い形で引き継いでいくことができるかというのを、真剣に考えていく必要があります。

これからの互理町は何を大切にしながら進めていけば良いのか、町民の皆様方とともに、将来のあるべき姿を皆様方の思いを込めて明日の互理町づくりを描き、それを夢で終わらせず、確かな未来に変えていくためにも、より具体策を盛り込んだまちづくり計画に作りあげたいと決意している次第です。

活力と魅力に満ち溢れた、誇りを持って次の世代へ引き継いで行くことのできる互理町づくりのために、町民の皆様の意見やご希望を盛り込み、多くの叡智を結集して全力で取り組んで参る所存ですので、皆様それぞれお忙しいとは存じますが、是非日程調整をいただきましてご出席いただき、それぞれの専門的なお立場や町民代表としてのお立場から、忌憚のないご意見、ご提言を賜りますようお願い申し上げまして、あいさつとさせていただきます。どうぞよろしく願いいたします。」とあいさつがあった。

3. 委員紹介

○事務局の関本班長が委員名簿に基づき、職名と氏名を読み上げた。

○町長、副町長、教育長と事務局7名、及び策定支援を行う国際航業株式会社からの出席者3名を紹介した。

4. 互理町総合発展計画審議会条例について

○事務局の吉田課長が「互理町総合発展計画審議会条例」の読み上げ及び説明を行った。

5. 協議事項

1) 会長及び副会長の選出について

○齋藤町長の司会進行により、会長及び副会長の選出を行った。

○議長（齋藤町長）が会長の選出方法について委員に諮ったところ、鎌田委員より事務局案の提示を求められたため、事務局の吉田課長から「会長に学識経験者である風見正三委員、副会長に互理地区会長の伊藤建夫委員」の案を提示した。

議長が委員に諮ったところ、全員異議なしということで、会長に風見委員、副会長に伊藤委員が選出された。

○ここで町長は議長の任を降りた。

○風見会長及び伊藤副会長が議席中央に席を移動した。

○風見会長より、「亙理を支えているお歴々の中で、学識経験者として会長に選出されたことについて、謹んでお受けしたいと思います。総合計画は市町村の一番大事な計画であり、町のビジョンが重要となります。行政だけが計画を作る時代は終わり、住民の皆さんの言葉が入ってこそ魂が入るものですし、私自身、町のために少しでもお役に立てればと思っております。また、地域の人達がどれだけ地域を愛する気持ちがあるのかがまちづくりの全てだと考えています。齋藤町長のもと亙理町政は運営されていきますが、我々審議会も重要な役割を担っております。これから2年間、よろしく申し上げます。」とあいさつがあった。

続いて伊藤副会長より、「このように大勢の委員の皆様からご指名いただき、恐縮しております。風見会長のもとで精一杯努めますので、よろしく申し上げます。」とあいさつがあった。

6. 第5次亙理町総合発展計画策定及び亙理町国土利用計画にかかる諮問

○齋藤町長から風見会長へ、「第5次亙理町総合発展計画及び亙理町国土利用計画について、平成27年11月30日までに答申されるよう、お願い致します」と書状を交付した。

7. 事務局説明

- 1) 第4次亙理町総合発展計画の概要について
- 2) 第5次亙理町総合発展計画の策定スケジュールについて
- 3) 亙理町の現況について

○事務局の庄司副班長が資料1、資料2、資料3に基づき、1)から3)までの説明を行った。

風見会長：このように、事務局がまとめた資料に基づき、それぞれのお立場での要望や課題をこの場で議論していくこととなります。皆さん案外自分のまちのデータ等は知らないことが多いですから、今日配布された資料を家でもう一度ご覧になり、勉強していただきたいと思っております。

検討の手順としては、まず現状認識、次に理念に基づき構想や施策を検討していき、住民にパブリックコメントをかけます。パブコメが1件もないのは恥ずかしいことですので、皆様の活発な意見交換を期待します。また同時に、庁内でもよく検討していただき、棚上げになるような総合計画ではなく、やりたいことを盛り込む計画としたいです。そうでなければ計画は町民に受け入れられません。委員の皆様にはその責務があるということです。

それではまず、ご説明あった資料の内容等だけでなく、会の進行の仕方や確認したいことなどの質問を受け付けたいと思っております。何かありませんか。

齋藤委員：まず、第4次総合計画についての総括を、はっきり説明してください。

事務局吉田：計画の実績等については、ただいま取りまとめているところです。概ね順調に進んでいますが、委員の皆様によりご理解いただけるよう、詳細なデ

一タを付けてご提示したいと考えておりますので、次回説明させていただきます。

齋藤委員：行政が理解しているだけで町民が理解できないのでは、審議会の意味がありません。1つでもいいので説明してください。

事務局吉田：役場や保健福祉センターは計画期間内に間に合わない状況となっています。

風見会長：前回計画の精査や総括は重要なことですので、事務局で資料がまとまり次第、できれば事前配布していただければと思います。

事務局吉田：資料は事前配布させていただきます。

また、審議会は10回程度の予定とご説明しましたが、今後専門部会を設け、その中で検討していただいた内容を審議会でとりまとめることとしております。参画する部会については、委員の皆様アンケートを取って調整する予定となっています。

風見会長：審議会はそれぞれの意見を協力してまとめていく場です。計画の総括は重要ですので、事務局はご意見を真摯に受け止め、可能な限り資料を早くまとめて事前に配布していただければと思います。

総括・評価については色々なご意見があると思います。厳しい目も必要ですが、温かい目も持って課題を共有していきたいので、事務局も委員の皆さんもよろしくお願いします。

他に何かご意見ありませんか。これだけ大きな会だと出しづらいかもかもしれませんが、では口火を切る意味でも、郷古先生の方から専門的なお立場からのご意見をお願いします。

郷古委員：宮城大学の郷古です。委員からのご意見にあった通り、第4次計画の評価とともに、震災の影響により状況が激変しているということも重要と考えます。震災復興計画とのすり合わせが必要な他、各部会で震災によりどのような状況の変化があったのかもお聞きできればと思っています。また、財源フレームとの調整も不可欠ですので、ある程度夢を持ちながらも具体性を確保しながら検討を進めていければ、良い計画になると思います。

風見会長：財政との関係は重要ですね。

今日がスタートで、これから皆さんでじっくりと考えていきたいので、知恵を出していただければと思います。

私の専門から少し言いますと、私はコミュニティビジネスとして、特産品だけでなく景観活用や里山リゾートなど、様々なアイデアを市町村に提案しています。今も東松島市でC.W.ニ科尔さんと一緒に、高台に移転する木造学校についての活動をしています。

まちづくりの主人公は地域の皆さんなので、その視点で地域資源を見直し、思いを提案していただきたいです。

それでは私から指名させていただきます。女性や子育ての観点から、「わたりっ子を育てる会」の会長の伊藤さん、お願いします。

伊藤(幹)委員：震災以降、小さな子どもたちが集えるところや町の行事が、中心部に集中

しているように感じます。元のように地区に点在させて、地区内の交流を促進していただければと思っています。

風見会長：次世代にバトンをどう受け渡していくかについて、事務局でも意識していただければと思います。

それでは、次世代を担うライオンズクラブの黒崎さん、いかがでしょうか。

黒崎委員：少子高齢化の中で、これからは人口を取り合う時代が来ると思うので、今から互理の人口を増やすのは難しいと考えています。そこで、特に子育て世代が「互理は住みやすい」と選んで移住してくるような町になれば、将来的に発展していくのではないのでしょうか。

風見会長：先日新聞から取材を受けた際に、定住のためには住宅だけでなく、仕事を作り、町が強力なビジョンを作ることが重要と答えました。
ここは多世代の意見交換をする場であり、これからの互理をどうしていくかを議論する場でもあります。震災から立ち上がり、希望を持って暮らしていき、復興をPRしていくことが必要です。そのためには各種クラブやNPOが横断的につながり、住民を巻き込んでいって欲しいと考えています。その関係で、NPO法人のセリアさん、いかがでしょうか。

セリア委員：私はインドネシア出身で、高校から東京に住んでいる音楽家です。震災の4日後、イスラエル親善大使の依頼で組織を作り、東北に来ました。私は互理が大好きです。なぜなら、色々な意見を受け入れてくれる町だからです。

この3年間で感じたことは、震災を歴史として残すこと、移住したいと思える町になることが重要ということです。

その中でも、20年後を考えた時、やはり一番重要なのが教育です。日本や互理の色を出した国際教育を踏まえながら、芯が強く、チャレンジ精神や創造・想像力を持ち、行動力と集中力のバランスを取ることができるような教育が大切と考えています。

また、子どもたちだけでなく、いずれ自分もなる高齢者との関係も重要です。まだ互理を全て知っているわけではないので、一步一步進んで行きたいと思います。

風見会長：国際的な視点は重要ですし、世界中から人が来るような互理になるためのアドバイスなどもいただければと思います。

これからは国際交流の他に芸術も重要ですが、芸術文化協会の大堀さんは、互理の魅力や目指すべきところなどについて、どのようにお考えでしょうか。

大堀委員：人種や年代に関係なく文化を伝承するには、口伝の文化等を記録・保存して、広めることが大切です。以前県の事業として、5年をかけて宮城県内に広まっている伝統芸能を映像や音声として収録・記録し、本を出しました。これを次代に伝えて、守っていきたくて考えています。

風見会長：観光においては、本物が生き残るものです。他にはないもので勝負できるように残していくことは大事だと思います。

続いて、産業という観点から、農業委員会の青柳さん、いかがでしょうか。

青柳委員：津波で7割の農地が塩害に遭い、当時は農家の方々もやる気をなくしたのですが、今は基盤整備が進んで700町歩完成し、残りは来年度に完成する予定となっています。農家にとっては後継者不足が大きな問題で、農業員会でも検討していますが、明快な答えは出ていません。今後、是非皆さんのご意見も聞かせていただければと思っています。

風見会長：農林漁業や第6次産業とのつながりの検討も重要になってきますので、この場で議論できればと思います。
それでは漁業協同組合の菊地さんはどのようにお考えでしょうか。

菊地委員：震災後、沿岸部に子どもたちが寄り付かなくなっており、前のように海と戯れる環境を作り出さなければと思っています。
また、7メートルから13メートルの堤防や鳥の海の道路の嵩上げなどが、観光にも影響することも懸念しています。町が減災を謳っており、生命が第一となると何も言えなくなってしまうのですが、これについても皆さんのご意見をお聞かせいただければと思います。
なお、町が頑張って漁業面のインフラを整えていただいたので、漁獲量は震災前の3倍、金額にして2倍にまで伸びています。これを観光などのコミュニティビジネスや、付加価値を付けた6次産業化などに繋げたいので、これについてもご意見をいただきたいです。

風見会長：防潮堤は大きな検討課題になるかと思っています。
これからの互理では「観光」がキーポイントのひとつになると思うので、「美しい互理とは」をもう一度考え直し、ハード・ソフト含め建設的な意見交換を行い、町とともに良い計画を作っていければと思います。
それでは、商業の面から商工会長の丸谷さん、いかがでしょうか。

丸谷委員：商業については、自助努力を続けてきたところですが、TPP対策として売れる農業を目指す中で、我々商業も第6次産業などの工夫をしていかなければなりません。
商業地域のドーナツ化現象や人の流れが大きく変わっている状況下で、我々審議委員の責務は非常に大きいと感じています。先ほど齋藤委員がおっしゃったように、第4次計画の総括をしながら、全町をサービスエリアとした拠点となる公共施設づくりや、衰退を続ける中心市街地の今後の姿を検討する必要があると思います。

風見会長：地域資源を繋げてセールスしていくことが重要となります。今後、それぞれの部会において、各々の立場からこれらの課題を見直して欲しいと思います。
それでは、女性の立場から、婦人団体連絡協議会の小野さんのご意見はいかがでしょうか。

小野委員：地域婦人団体は戦後から続いている団体で、一言で言うと地域を自分たちの手で、やれる範囲で盛り上げていくことを目的としています。若い会員があまりいないというのが課題となっていますが、それでも震災後、ボランティアの方々が支えてくださったのだから、我々も頑張らなければいけないと思い、出来る範囲での草刈りや花植えなどをしています。
また、私の住む吉田地区や荒浜地区は非常に大きな被害を受け、何も無い

段階からのスタートとなっています。我々でも実行しやすいソフト面だけでなく、やはり行政によるハード面の整備も重要ですので、意見を吸い上げていただければと思います。

考えなければいけない要素は次々に思いつきますが、言葉だけの総合発展計画ではなく、是非実施計画に盛り込んでいただけるよう、意見を申し上げながら検討していきたいので、よろしくお願いします。

風見会長：主役である住民が当事者意識を持ちながら、町長はじめ行政の方々と信頼し合い、連携していくことが重要です。

美辞麗句を並べるだけでない、しっかりとしたビジョンがやはり大事となります。この言葉を皆さんがそれぞれの立場で持ち帰り、実行できなければ、ただの計画になってしまいます。

何もなくなったところから作るのは大変ですが、それだけ可能性を秘めている、新しい発想でまちを作る機会でもあります。

私は多くの市町村の計画づくりに携わってきましたが、やはり最高の資源は「人」だと感じています。この「人」と「計画」を繋ぐ役割を担っているのがまちづくり協議会ですが、その観点から伊藤副会長はどのようにお考えでしょうか。

伊藤副会長：まちづくり協議会は、住民主体の協働のまちづくりという発想から、5地区で協議会を立ち上げて活動しています。我々の力で自分たちの住みやすい地区とするということを基本に、計画を策定して公表するなどしています。

地区にはそれぞれ特徴があります。それらを踏まえながら協議を続け、審議会で意見を出しながら進めていきたいと思っています。

風見会長：今度の震災でも、コミュニティの強いところが最初に立ち上がることが証明されました。

これからは、住民が主体となり、コミュニティがしたいことを行政が支えていく時代です。住民が何をしたいか、誰とどう手を繋げば何ができるかを考えることが重要です。皆さんは一町民であると同時に、それぞれの役割を持つ方たちですので、行政を交えながら議論を重ね、更に自分の持ち場に持ち帰ることが大切です。

では、住民参加という立場から、公募委員である鈴木委員はどのようにお考えでしょうか。

鈴木委員：6月に公募委員を募集しているのを知って、震災復興の時期にこれからの亘理町と一緒に考えていきたいと思い、応募しました。

私は亘理町で子どもを育て上げ、今主人と暮らしていることを、本当に感謝しています。

未来への最高の財産は、まず今いる子どもたちです。そして、今日まで亘理を支えてきてくださったおじいさん、おばあさんお一人お一人です。

私は仙台出身で結婚を機に亘理に住んでいますが、亘理を出て行きたいと思ったことは一度もありません。住民の皆さんが、この亘理で一生活み続けたいと思える町にしていだけたら、何も言うことはありません。

亘理町に満足し、住んで良かったと思えるまちづくりに少しでもお役に立てればと思っておりますので、よろしくお願いします。

風見会長：素晴らしいご意見で、町長さんもとても嬉しく聞いたのではないのでしょうか。

このような場に町長さんが出席されているのは非常に珍しく貴重ですので、ここで一言お願いできればと思います。

齋藤町長：私は亙理大好き人間で、選挙のスローガンを「誰もが暮らしやすさを実感できるまちづくり」として立候補しました。皆が来たくなるまちづくりを目指すために、2つだけお話しします。1つは、「亙理町は公園のまち」としてのパークタウン構想です。町民一人ひとりが自分の地区の良さに気づき、発信して、交流人口の増加を図ります。2つめは前町長も言っていましたが「まちづくりは人づくり、人づくりは教育にあり」のもと、良い先生方を町に呼び、世界に通用するたくましい亙理っ子を育てることです。亙理町は可能性のある町ですので、この審議会では皆様の忌憚ないご意見を期待しております。

風見会長：まちづくりでは、首長さんが本気になり、まちがひとつになっていることが非常に重要です。また、我々も次の亙理をどうするかというバトンを持たされているということを自覚し、この場を活用して良いまちづくりを検討していきたいと思います。

行政だけに任せる時代は終わりました。素人、市民の意見もとても重要ですので、臆することなく発言してください。

皆さんのご意見をお聞きしたいところですが、時間もありますので、ここで本日の意見交換は終了とさせていただきます。

8. 質疑応答

○質問は特に出されなかった。

9. その他

○事務局の関本班長から次回開催は10月下旬に予定しており、調整が付き次第委員に連絡する旨が伝えられた。

○亙理警察署の千葉委員より、配布資料の復興計画図について、修正依頼の内容が伝えられた。

千葉委員：復興計画図にあります荒浜駐在所につきまして、この場所への再建については状況を見ながら検討中の段階です。事務局におかれましては、誤解を招きかねないので削除をお願いします。

風見会長：事務局で修正対応をお願いします。

資料は事前配布していただき、委員からメールなどで意見をもらって、それに対する答えを準備して審議会に臨むという形でも良いかと思うのですが、どうでしょうか。

事務局吉田：メール等については、今後検討させて下さい。

なお、本日の出席者には、資料と議事録を送付させていただきます。

風見会長：事務局と委員がお互いに敬意を持って、二人三脚で進めていきたいと考え

ています。総合計画は町の一番重要な計画であり、全ての計画に影響する
ものですので、一丸となって気持よくこの計画を作っていきます。感
動的なまちづくりをするチャンスです。

次回は指名ではなく挙手により、皆さんから互理の自慢話などたくさん
のご意見を聞くことを楽しみにしております。本日はありがとうございました。

○ここで風見会長が議長の任を降り、進行が事務局に移行された。

10. 閉会

○関本班長が閉会を宣言した。（午後 3 時 35 分閉会）

